

平成 25 年度第 1 回 IODP 部会執行部会

日時:2013 年 5 月 25 日(土)12:30~16:30

場所:JAMSTEC 東京事務所共用会議室

出席予定者:

執行部:石渡 明(部会長・東北大学東北アジア研究センター)

西 弘嗣(部会長補佐・東北大学総合学術博物館) 池原 研(産業技術総合研究所)

池原 実(高知大学海洋コア総合研究センター) 斎藤実篤(IFREE/JMSTEC)

中村恭之(IFREE/JMSTEC)平野直人(東北大学東北アジア研究センター) 道林克禎(静岡大学)

村山雅史(高知大学海洋コア総合研究センター) 山田泰広(京都大学)

前部会長:川幡穂高(東京大学大気海洋研究所)

オブザーバー:

文部科学省:木村 穰

専門部会長:石橋純一郎(科学計測専門部会・九州大学)

黒田潤一郎(掘削航海専門部会・IFREE/JAMSTEC)

事務局:倉本真一、梅津慶太(CDEX)

欠席予定者:木村純一(IFREE/JMSTEC)坂口有人(山口大学)鈴木庸平(東京大学)中西正男(千葉大学)

横山祐典(東京大学大気海洋研究所)

議事次第

1. 前期執行部からの申し送り【川幡前部会長】
2. IODP の国内推進体制【事務局】 資料 1
3. IODP の動向報告【事務局】
 - ・10 月以降の IODP の枠組み..... 資料 2
 - ・航海スケジュール..... 資料 3, 4
4. 第 5 期からの引き継ぎ事項及び今後の方針【西部会長補佐、事務局】
5. 執行部役割分担 資料 5
6. 普及活動について
 - ・2003 年から 10 年間の IODP 成果報告会..... 資料 6
 - ・地質学会ブース展示
 - ・IODP キャンペーン
7. その他
 - ・その他報告事項など
 - ・次回執行部会開催日程確認

配布資料

- 資料 1 掘削科学の国内推進体制
- 資料 2 Framework for International Ocean Discovery Program
- 資料 3 IODP 掘削航海スケジュール
- 資料 4 IODP 航海乗船者・乗船応募者
- 資料 5 執行部役割分担
- 資料 6 「ちきゅう」関連「記者レク／懇談会」開催(案)

議事録（案）

1. 前期執行部からの申し送り【川幡前部会長】

川幡前部会長より前期からの申し送り事項が説明された。

- ・ コアスクールの継続と国際化
- ・ 韓国との関係(研究者レベルでのつながりを断ってはいけない)。
- ・ JAMSTEC/CDEX や MEXT との方針の一致
- ・ プロポーザルの推進(J-DESC では特にレビューの部分)。

2. IODP の国内推進体制【事務局】..... 資料 1

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ IODP の国内推進・支援体制として、JAMSTEC/CDEX に地球掘削科学推進委員会(委員長:松本 良氏)を設置している。
- ・ この委員会は J-DESC からの意見を聞き、CDEX で行う国内支援について大所高所から助言することが主な役割である。
- ・ 一方、専門部会は SCP に対応する事前調査検討専門部会、EPSP に対応する環境保護安全専門部会、STP に対応していた科学計測専門部会、そして航海への応募者評価を行う掘削航海専門部会が設置されている。
- ・ STP と SIPCom はすでにその役割を終えており、最後の会議は終了している。
- ・ PEP の人選等の戦略検討は執行部の役目。

3. IODP の動向報告【事務局】

・10 月以降の IODP の枠組み 資料 2

木村企画官より説明がなされた。

- ・ 研究者側から見れば、IODP-MI がなくなること以外はほとんど変わらない。
- ・ パネル委員の数については、今後アメリカ側から日本の委員の人数が連絡がある。それに対して必要な国内サポート体制の構築や人選を行ってほしい。
- ・ ECORD は特に、国際的枠組み堅持を推進したい立場であり、日本と同調している。
- ・ 日米が 2 国間で話す正式な場はほとんどなくなったが、日米欧は 3 か月に 1 度ほどはあつて話をする機会があり、枠組みの詳細に関する話を継続している。6 月にも ECORD Council 会合が予定されている。
- ・ プロジェクトパートナーオフィス(PPO:プロジェクト連携事務所)はほぼ実現不可能な状態になっている。しかし、その機能は補完できるように検討している。

倉本氏より「ちきゅう」関連について説明がなされた。

- ・ Chikyu IODP Board (CIB:ちきゅう IODP 運用委員会)はメンバーが決定し、第 1 回会議を 7/23~25 に JAMSTEC 横浜研究所において開催予定。
- ・ IODP Forum 会議に合わせて IO が集まるの会合(IO meeting)を開催することを考えているが、USIO が来年度変わる可能性があるため、その状況待ちでもある。

< 質疑応答 >

- ・ 新しい枠組みになることで、プロポーザルの提出先は変わるか？(石渡)
- ・ iodp.org のウェブサイト自体は NSF が資金を出したうえでスクリップスが引き継ぎ、研究者から見た窓口はこれまでと変わらない。(木村)
- ・ 形式上はプロポーザルはアメリカの組織に提出するという形になるのか？
- ・ 形式上はそうなる。(木村)
- ・ 今までのプロポーザルもスクリップスが引き継ぐのか？(西)
- ・ その通り。(木村)
- ・ スクリップスと NSF の契約の期限は？(梅津)
- ・ スクリップスと NSF は契約という形ではなく Cooperative agreement のような形態をとるようだ。まずは初年度実施し、13 年度末に行われる Board による審査で 5 年間のプログラムが承認されれば、引き続き 5 年間スクリップスがサポート・オフィスを担う。(木村)
- ・ パネルの人数を半分にしたいということについてはどのくらいのタイムスパンで考えられているのか？(中村)

- それについてははっきりと聞いていないため、再来週の ECORD Council の際に聞いてみる。(木村)

・航海スケジュール..... 資料 3, 4
事務局より資料 3, 4 に基づき、標記の件について説明がなされた。

- JR は来週から 2 か月間 Exp. 341 のアラスカ航海を実施し、その後 7/29～9/28 に Exp. 346 で日本海掘削を行う。さらにその後、来年 1 月～3 月に Exp. 349 South China Sea, 3 月以降は IBM を 3 航海(350, 351, 352)実施する。
- 「ちきゅう」は Exp. 348 の南海掘削を 8 月～来年 1 月まで実施。昨年の航海の掘削目標だった 3,600m を掘削する予定。
- MSP は Exp. 347 のバルト海掘削を 7 月に開始する見込み。
- Exp. 349～352 はまだ乗船者が決定していない(乗船者募集は終了)。応募者数は 349:2 名, 350:7 名, 351:8 名, 352:4 名。349 以降の航海は新しい枠組みでの航海のため、乗船枠は平均して 1 航海につき 4 名。Co-chief は枠外。350 は JAMSTEC/IFREE の田村氏, 351 は産総研の石塚氏がそれぞれ Co-chief に決定している。
- 来年度以降のちきゅう航海は冬に実施する見込みで調整中。

4. 第 5 期からの引き継ぎ事項及び今後の方針【西部会長補佐、事務局】

西部会長補佐より標記の件について説明がなされた。

- 前期 IODP 部会執行部からの引き継ぎ事項は以下の通り。
 - 新しい国際委員への対応 (PEP, SCP, EPSP)
 - 事前掘削支援に関する事項(特に、事前調査に関して):どのように支援するか
 - 会員提案型活動経費の採択規定(何度も出しているか)
 - 予算執行の効率化

引き続き今後の方針について検討がなされた。

- EPSP の対応について
 - EPSP に関しては、CDEX の中に掘削安全委員会という外部委員会がある。「ちきゅう」に関してはこの委員会が安全性の評価を行う。EPSP には掘削安全委員会から委員を送る(兼務する)のがよいというのが CDEX の提案。
 - EPSP は反射断面に基づく圧力、天然ガス、ハイドレートなど、掘削オペレーションに関する掘削サイトのハザードアセスメントを行う。また、生態系に関する影響評価を行っている。
 - 科学者が EPSP の委員として出る必要があるかどうか？
 - EPSP はサイエンスというよりも Implementation に関わるため、経験者・有識者のほうが適任であると考え、CDEX に任せてもよいのではないか？

合意事項(130525-01):EPSP は J-DESC ではなく、CDEX にフォローをお願いするのがふさわしい。本件について、石渡部会長より環境保護安全専門部会の森田部会長に意見を求める。

- 事前調査支援について
 - 事前調査データの取得については IFREE との連携による地下構造探査の実施という協力関係を構築したが、あまり機能していないようだ。
 - 基本的には専門部会に考えてもらうのがよいのではないか？
 - プロポーザルを書くためのサイトサーベイについて助言することをもっと考えてもよいかもしれない。

合意事項(130525-02):事前調査検討専門部会にプロポーネントに対する事前調査支援案を作成するように求める。

- 会員提案型活動経費について
 - 成果を出すためであれば、支援が必要な提案に対して積極的に支援するのがよい。
 - Exp. 346 の申請に関しては、現在 IODP の国内支援の枠組みでカバーされない部分であった(プロポーザル採択後～乗船者決定の間)。本来は JAMSTEC/CDEX の国内支援の枠組みで実施できればよい。

- Exp. 346 のように日本人がリードするプロジェクトは IODP の歴史の中でそう多いものではない。こうしたケースが増えてくれば制度を整備する必要はあるが、提出されているプロポーザルの現状を見るとまだその段階ではない。逆にこれが整備されればプロポーザルがたくさん提出されるのであればぜひ制度として検討すべきと事務局としては考えている。

合意事項(130525-03) : 会員提案型活動経費の申請への回数制限について特に明確なルールは設けず、申請ごとに期待される成果等を考慮し採択を決定する

5. 執行部役割分担 資料 5

- ・ 専門部会について
 - 掘削航海専門部会については、乗船応募者の評価を役割としており、メールベースの会議のみである。
 - 国際パネルは、PEP, SCP, EPSP が残り、PEP には 6 名、SCP, EPSP には各 1 名が日本から委員として参加することになる。
 - 事前調査検討専門部会は SCP の対応だけでなく、事前調査支援に関する検討を行う役割を持たせる。
 - 科学計測専門部会は、STP はなくなったものの、こうした専門家の集まりをいったん解消した場合、必要になった際に再構築するのは非常に困難である。

合意事項(130525-04) : 科学計測専門部会、事前調査検討専門部会は当面継続させ、環境保護安全専門部会については保留とする(森田専門部会長の意見を聞く)。

- ・ 役割分担(担当者敬称略)
 - 部会長 石渡 明
 - 部会長補佐 西 弘嗣
 - 庶務・会計 平野直人
 - 広報 坂口有人
 - 会員提案型活動経費審査委員長 池原 研
 - 会員提案型活動経費審査委員 道林克禎, 鈴木庸平
 - 掘削航海 木村純一, 横山祐典
 - コアスクール 池原 実
 - JpGU 斎藤実篤
 - プロポーザル支援 山田泰広, 村山雅史
 - 事前調査検討専門部会 中西正男
 - 環境保護安全専門部会 中村恭之
 - 科学計測専門部会 中村恭之, 斎藤実篤

6. 普及活動について

- ・ 2003 年から 10 年間の IODP 成果報告会 資料 6

資料 6 に基づき、事務局より説明がなされた。

- 2003 年から行われた IODP の 10 年の成果を一般国民に知ってもらうため、9 月にイベント(講演会もしくはシンポジウムのようなもの)を実施する。このイベントには一般にもよく知られている著名人をゲストとして招く計画である。
- 一般国民に知ってもらうためには記者などメディアに対する理解促進の活動が必要であり、イベントの前に月 1 回の記者へのレクチャー(記者レク)を実施する予定。
- 記者レクのテーマは、しばしば取り上げられ、記者にとってもある程度なじみのある「ちきゅう」の掘削航海がふさわしいと考えている。
- また、これまで J-DESC としてはあまり記者や一般国民に対しての露出度は高くなかったが、JAMSTEC だけでなく、日本の研究者コミュニティーがオールジャパンとして掘削科学を推進しているという姿勢を記者や一般国民に示すことは重要であると考えている。
- 一般向けイベントに合わせて、研究者向けにも IODP 成果報告会総集編を実施したいと考えている。これは、10 月に月刊地球特集号として刊行予定の「IODP10年の成果(仮)」の出版記念シンポジウムを兼ねる。

合意事項(130525-05):これまでのIODPの成果に関するイベント及び記者レクへの協力を行う。ただし、一般向けのイベントについてはターゲットをより明確にするなど、具体的な実施計画書の提出を求める。

- ・ 地質学会ブース展示

事務局より標記の件について説明がなされた。

- 今年の地質学会仙台大会においてブース出展の案内がJAMSTECに届いた。
- 例年、IODP関連も含め、地質学会においてはJAMSTECが「ちきゅう」の紹介をすることどまっており、学界においても掘削科学はJAMSTECの事業であるイメージを持たれている。
- このイメージを払拭し、IODPやICDPの紹介をJAMSTECとJ-DESCが共同で行うことで、オールジャパンで推進しているものであることをアピールするため、JAMSTEC/CDEXとして1ブース分、J-DESCとして1ブース分出展し、つなげて2ブースでIODPやICDPの紹介を行ってはどうかと考えている。
- 地質学会でのブース出展料は1ブース5万円。
- JAMSTECではCDEXとは別にIFREEなどもJAMSTECとして出展する見込み。

合意事項(130525-06):地質学会仙台大会において1ブース分のブース出展を行い、CDEXのブースと合わせてIODPやICDPをオールジャパンとして宣伝する。

- ・ IODPキャンペーン

事務局より標記の件について説明がなされた。

- 10月中旬に東北大学片平キャンパスのオープンキャンパス(片平まつり)においてIODPキャンペーンとして一般国民向けのミニ展示と講演会を実施する。
- 片平まつりでのキャンペーンのテーマはJFAST航海にちなんだものがふさわしい。
- 今年度より山口大学が新たにJ-DESCに加盟することから、山口大学においてもIODPキャンペーンを実施してはどうかと考えており、坂口氏からも前向きな返事をもたらしている。
- これらのIODPキャンペーンを実施する際には、執行部の協力が必要である。

7. その他

- ・ その他報告事項など

- CHIKYU+10の報告

- ◇ EOSへの原稿(500words制限)は出来上がっているため、近々掲載される。
- ◇ 6月末までにフルの報告書がJAMSTECに提出される予定。
- ◇ プロポーザルについては、CIBマターとなっている。
- ◇ プロポーザルフローとしては、プレプロポーザルが提出され、PEPにて評価をうけた後、優れたものについてはCIBに送られ、ワークショップの開催や次のステップへ進むことが勧告される。その後事前調査も含めてフルプロポーザルが執筆され、再びPEPにおいて評価をうけた後、高評価を受けたものがCIBに送られスケジューリングされることになる。

- ・ 次回執行部会開催日程確認

CIB会議の後 8月前半で後日メールにて調整することとなった。